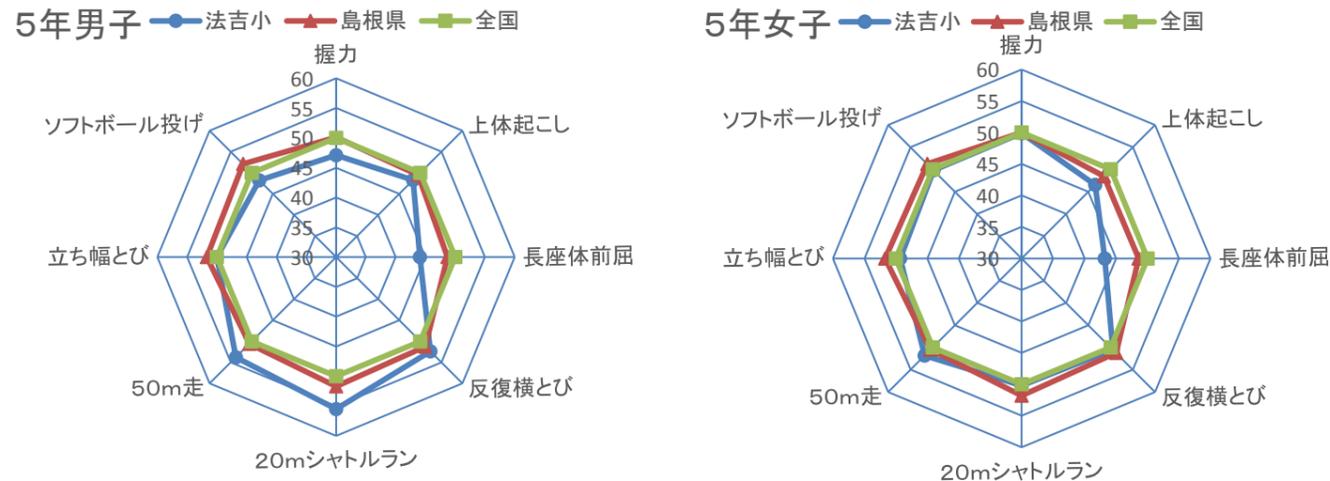


(1)児童の体力の現状

- シャトルラン、50m走については、県平均を上回る学年が多い。
- 各学年において、外遊びや縄跳びなどの運動遊びをする児童が多く見られる。
- 上体起こし、ソフトボール投げは、全学年で県平均を下回った。
- 握力は1年以外、長座体前屈は3年男子以外、反復横とびは2年男子以外は県平均を下回った。

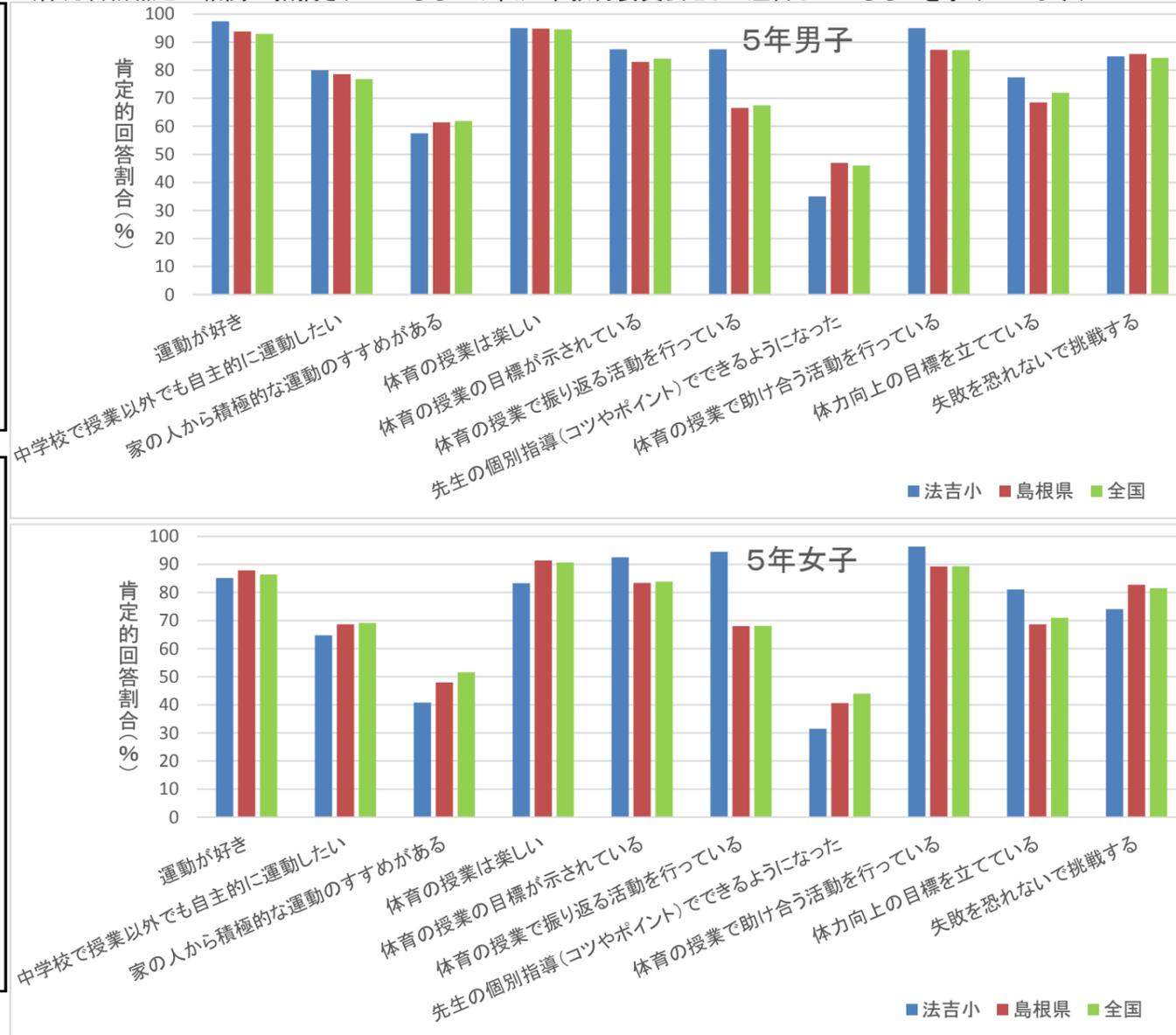
(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

- 国宝松江城マラソンや外遊び等により、走力は高い傾向にある。
- 各学年で、運動量の確保を意識した体育学習が進められ、持久走や5種目歩走などにも多くの学年で取り組んだ。
- 「チャレンジカード」を作成し、児童が様々な運動遊びに積極的に取り組める環境づくりを行った。
- 体育のマット運動、跳び箱運動や器械運動発表会に向けての練習を通して、柔軟性を養う運動に重点的に取り組んだ。
- 社会体育に参加していない児童が抵抗感なく運動に取り組めるよう指導・環境の充実を図る。
- 体力テストの結果を見ると、女子の結果で県平均に届かなかったものが多く、運動経験のバラつきが考えられる。女子の運動離れを改善していく必要がある。
- 投力が依然として課題である。遊び環境の見直し・整備を継続して行い、投げる機会を増やしていく必要がある。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
  - ・今年度の体力テストの結果を各学年に下ろし、課題となる点の共通理解を図る。
  - ・国宝松江城マラソンや校内ロードレース大会を継続して行う。
  - ・多様な体の動きを意識した体育学習の推進を図る。
  - ・委員会活動等を通して、全校遊びやスポーツ大会、外遊びの推奨を行う。
- ②地域や家庭との連携による取組
  - ・保護者や地域へ児童の体力の現状を伝える機会を設け、運動の機会が増えるよう啓発していく。
  - ・メディアコントロールウィークとタイアップし、家庭での運動機会が増えるよう啓発していく。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
  - ・学力調査における意識調査の結果や、メディアコントロールウィークの結果をもとに、生活習慣の把握、改善を行う。
  - ・栄養教諭の協力を得ながら、食の学習に取り組む。

調査実施者数(人) 1年(男子39・女子40) 2年(男子32・女子26) 3年(男子30・女子41)  
4年(男子42・女子43) 5年(男子38・女子51) 6年(男子50・女子46)